

血液検査で測定させていただく各種アレルギーに対するIgEの種類（13種）のご説明

存在する場所	アレルギー	各アレルギーの解説
環境中のカビ	アスペルギルス (アスペルギルス・フミガーツス)	お風呂場よりも寝室や靴箱など風通しの悪い場所のホコリに多いカビです。ぜんそくやCOPDを悪化させやすいアレルギーですが、普通は目に見えません。ほかのカビと違い、気管支内で生き続ける（腐生）性質があり、陽性の方は環境整備が重要です。室内のカビは湿度が50%以下だと増えにくくなります。
	アスペルギルス独自のアレルギー： Asp f 1	アスペルギルス・フミガーツスへのアレルギーを調べる手がかりになるタンパク質です。陽性ならアレルギー体質の可能性が高いものの、陰性でも完全に否定はできません。
	アルテルナリア	屋外で植物の表面につく黒っぽいカビで、風が強い日は空気中に多く飛びます。室内では湿気が多い浴室や水回りにも住みつきます。世界的に、特に子どものぜんそく悪化や副鼻腔炎の原因として知られています。
	ペニシリウム	室内のホコリや、パン・餅に生えるカビとして有名です。アレルギーとしてはアスペルギルスほど強くありませんが、似たタンパク質を持っています。
粘膜に常在するカビ	カンジダ	健康な人でも口や腸にいる常在菌です。吸入ステロイド使用後の口内や、偏った食生活により腸内で増えやすいといわれています。ぜんそくを重くするという報告もあります。
皮膚に常在するカビ	マラセチア	皮脂の多い顔や首にいる常在菌のカビで、肉眼では見えません。アトピー性皮膚炎を悪化させることがあります。
水虫・爪白癬の原因カビ	トリコフィトン	水虫の原因となるカビです。重いぜんそくの患者さんでは、このカビに対するIgEの値が高いことがいくつかの研究で指摘されています。
ホコリのダニ	コナヒョウヒダニ ヤケヒョウヒダニ	室内のホコリや寝具、カーペットに多いダニで、小児から若年成人の代表的なアレルギーです。
代表的な花粉アレルギー	スギ花粉	北海道と沖縄を除く日本各地で最も多い花粉症の原因です。ヒノキ花粉と似たアレルギーを含みます。
ペットアレルギー	動物上皮 (犬や猫などの動物アレルギー)	イヌ、ネコ、モルモットなど複数の動物アレルギーをまとめた検査です。特定の動物に対するIgE抗体の量を知りたい場合は、保険適用の個別検査が可能です。
昆虫アレルギー	蛾（ガ）	昆虫アレルギーの代表としてガを測定しますが、実際には見えない小さな昆虫も含めて多くの種類があり、アレルギーは互いに似ています。これらによりぜんそくやアレルギー性鼻炎が起こることがあります。このアレルギーに対するIgEの値は、中高年のぜんそくの方で、若い方よりも高くなることがあるといわれています。
皮膚の細菌アレルギー： 黄色ブドウ球菌が産生する 毒素	黄色ブドウ球菌エンテロトキシン A/B	人の皮膚にすみやすい黄色ブドウ球菌が出す毒素です。特にAとB型は、ぜんそく・鼻ポリープ・COPDを悪化させる可能性が報告されています。